

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(11月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎
矢祭町「子ども読書の街」づくり推進委員会委員長



『としょかんライオン』

ミシェル・ヌードセン さく／ ケビン・ホークス え／ 福本友美子 やく
出版社 岩崎書店 (3歳～小学校高学年向け)



題名を見た時、どういう絵本かなと思いました。絵にライオンの迫力が出て主役になります。作も展開が早く、場面を楽しませてくれます。最後の作に「いくら図書館の決まりでも、たまには、ちゃんとした訳があって、決まりを守れないことだってあるんです。」うなずきました。秋の夜長を本と楽しんでください。必読の一冊です。

内容のご紹介

図書館というところは、「決まりを守れば」誰でも入れるところです。

例えそれがライオンでも。……そんなことってあるの？

でもある日、その図書館に大きなライオンがやって来たのです。

決まりさえ守れば、誰でも分け隔てなく受け入れてくれます。だからライオンは、色々なお手伝いをするようになります。図書館に来る人も最初は怖がっていたのですが、だんだんとライオンに会いにやってくるようになります。

何しろお行儀がよくて、とても気が利きますからね。大きくて優雅なライオンが、静かに本を読む子どもたちと一緒に過ごしている姿、なんていう光景でしょう。

ところが、そう思わない頭のちょっとかたい人もいるようで…！？

本が好きでたまらない子に、図書館が大好きな大人にも。世界中で人気のこの絵本がおすすめです。
(矢祭もったいない図書館)